

(第9号様式)

平成30年度 第3回香川公民館運営審議会会議録

議 題	平成30年度第3回香川公民館運営審議会会議次第 議 題 (1) 平成30年度香川公民館主催事業報告(第2・3四半期) (2) 諮問について (3) 第30回公民館まつりについて (4) その他
日 時	平成30年12月12日(水) 14時00分～16時00分
場 所	香川公民館2階 和室
出席者氏名	山地廣委員、明石香代委員、大谷紀子委員、東いづみ委員、鈴木由香里委員、奥谷みさ委員
会議の公開・非公開	公開
傍 聴 者 数	0人
非公開の理由	

○事務局

これより、平成30年度第3回香川公民館運営審議会を開催いたします。本日、長谷川委員から欠席の連絡が入っておりますが、茅ヶ崎市立公民館条例施行規則第13条第2項の開催要件(過半数以上の委員の御出席をいただいております)を満たしておりますので会議は成立していることを御報告いたします。また、本日傍聴のお申し出はございません。はじめに、お配りしております資料の確認をさせていただきます。平成30年度第3回香川公民館運営審議会会議次第、【資料1～資料27】「香川公民館主催事

業報告書」(第2・3四半期分)、【参考資料1】主催事業アンケート、【参考資料2】答申書の構成(案)、本日机上配布の、2018年度香川公民館運営審議委員会諮問一答申まとめの方向案一、夏休み自由広場・サークル体験アンケート、以上、不足等はありませんでしょうか。それではこれより進行を山地会長、お願いします。

○山地会長

みなさんこんにちは、本日はお忙しい中、ご出席くださりありがとうございます。さっそく平成30年度第3回香川公民館運営審議会を開催いたします。次第にそいまして、議事を進めてまいります。この会議は公開になっており、会議録を作成いたします。会議録には会長と委員1名の署名が必要となります。名簿順にお願いいたします。今回は大谷委員よろしくをお願いいたします。それでは議題1、「平成30年度事業第2、3四半期分の報告について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

○事務局

それではまず、はじめに、資料1の「香川公民館主催事業報告書(平成30年度第2、3四半期分)」によりご説明させていただきます。前回から実施しています事業実施の様子をスライドでご覧いただきたいと思います。多く事業があるのでピックアップして事業を紹介します。資料1-1をご覧ください。ピラティスと題し、3日間にわたり、健康な体作りを目指し、体を動かす楽しさを体感してもらうとともに、交流のきっかけづくりの場とするものでした。ピラティス自体が人気であり、申込み開始20分で定員15名に達してしまいました。資料1-2 ズンバでダイエット(まちのフィットネス5月~7月)をご覧ください。まちのフィットネス事業の中の一つとしてズンバを実施しました。ズンバはラテンを始めとする世界中のダンス音楽を取り入れて創造された最近流行のフィットネスエクササイズです。参加した方は、「難しくてうまくできなかったけど汗をかいて楽しかった」「普段体を動かさないのが楽しかった」といった声が多く、音楽に乗って楽しく踊って、心肺機能の向上、体幹トレーニング、カロリー消費を実現でき、日ごろの運動不足とストレスを発散できたと思います。また、参加者は、5月は19名、6月24名、7月22名の参加がありましたが、託児保育を設けたこともあり、30代から40代の子育て世代の方が8割でした。アンケートには「来年もやってほしい」という声が多かったです。資料1-4 夏のおはなし会をご覧ください。今年で、13回目となりました「夏のおはなし会」です。これは明石委員にもご協力いただいております。「おはなしのたまご」というサークルさんにご協力をいただいております。7月に小さい子向き(2歳~未就学児)の演目、8月に大きい子向き(園児~小学生)の演目と2回行っていただきました。団体さんによる会場づくりは、素晴らしく、夏らしく海をイメージした装飾をしていただき、非常に良い雰囲気の中で行われました。資料1-8、新聞紙工作教室をご覧ください。小学生を対象とした事業で、お気に入りの新聞紙を使って、お片付けボックスやごみ箱など、工夫次第で何にでも使える軽くて丈夫な箱を作りました。新聞紙を利用することで、身の回りの物が容易に再利用することができることを知ってもらえることができたと思います。参加者は、各回とも10名の定員に達しており、夏休みに実施したことからか、5組の姉妹(姉弟)の参加でした。また、香川公民館でサークル活動をしている方がボランティアで、お手伝いしていただきました。こういった新たな関係性が構築されていくのも公民館としての役割の一つでもある

と思います。資料1-13 みんなの経済教室をご覧ください。「みんなの経済教室」は、5月に第1回目として「人生100年時代の人生計画と資産形成」と題して開催しましたが、3回目として「資料1-13 経済情報の読み方」を開催しました。第3回目の内容は、日々報道される経済情報をただ漫然と受け入れているだけでは全体の様子はなかなかつかめないということで、これら経済情報の中でも金融、為替、株式市場に影響を与えると思われる情報を中心に、その読み方・見方について知っていただきました。※第2回目に開催予定していた「資料1-5 金融犯罪の手口とその対応策」は、参加申し込みが3名と少なかった為、中止としました。これは、全国銀行協会の講師派遣要件が参加人数15名以上と定めてあり、15名を超える見込みがたたなかったためです。資料1-14 夏休み学習室開放をご覧ください。夏休み期間中、集会室小、和室、保育室の予約が入っていないとき、青少年に学習室の場として、空き部屋を開放しました。利用できる人は、小学3年生から20歳までとし、各日定員は10名としました。これまでも毎年、開放してきましたが、今回、香川小学校、鶴が台小学校の3年～6年生、鶴が台中学校、北陽中学校の全学年の児童、生徒へ学校を通じて、チラシの配布をしたことにより、前年度の44名と比較して倍以上、計96名の利用がありました。資料1-17 かがわ健康ウォーク番外編「水彩スケッチ散歩」をご覧ください。かがわ健康ウォークの番外編として「水彩スケッチ散歩」と題し、水彩スケッチをしながらウォーキングの楽しさを体験してもらうこととした事業を実施しました。1日目は、小出川周辺へスケッチに行く予定でしたが、雨天のためスケッチは公民館内で行い、ウォーキングを行いませんでした。2日目は、茅ヶ崎美術館にて開催しました。午前中、雨天のため、美術館内でスケッチをし、午後から茅ヶ崎海岸までウォーキングしてスケッチをしました。今回、ウォーキングより水彩スケッチにウェイトを置く形になりましたが、参加した方々が「水彩スケッチ散歩の会」として、サークルが発足することとなったことは良かったと思います。資料1-23 なわとび教室（まちのフィットネス）をご覧ください。先ほど、資料1-2 ズンバとダイエットを御説明いたしましたが、まちのフィットネスの一つとして、未就学児の親子、小学生を対象に実施したのが、「なわとび教室」です。資料1-15 「かけっこ教室」、資料1-20 「ボール運動教室」につきましても、まちのフィットネスとして未就学児の親子、小学生を対象に実施しております。かけっこ教室、ボール運動教室に参加していた人のうち9割の方がなわとび教室にも参加した結果となりました。リピーターとして参加していただくことで、今後も公民館事業が実施している事業に関心を持っていただけるものと思います。資料1-24 スマイリングままサロンをご覧ください。子育ての不安や焦りを抱えている産後4か月から1年以内の子育て中の母親を対象に、産後体操を通じて不安や閉塞感を解消するとともに、年齢の近い子どもを育てるもの同志で悩みを共感、情報共有することで、「孤独な子育て」を回避することを目的として実施しました。ぽかぽか保育園との共催事業で、公民館5館が連携し、順番に開催しました。

全館3回の講座で、第1回は、産後の身体をケアしよう、第2回は、産後の身体を引き締めよう、第3回は、産後のエクササイズを続けようとして5館同じ内容で開催しました。資料1-26 お米をつくろう&さつまいもを作ろう、をご覧ください。萩園にある水田と畑にて、田植え、草取り、稲刈り、脱穀まで。サツマイモ植えつけからサツマイ

モ堀りまでを体験する事業です。昨年度参加された2家族と新規8家族、計10家族が参加しました。4月から11月まで参加日が多いため、都合により欠席された方もいましたが、最後は、畑でバーベキューや芋煮会、お米を配布しました。天気にも恵まれ、参加した方々の半数以上の方が次年度も参加したいとのことでした。9回の事業を通して、農業への理解、茅産茅消の促進、参加者同士の交流を深めることができたものと思います。資料1-27 ユニバーサルスポーツ交流会をご覧ください。15歳から19歳の健常者が、障害のある人と一緒にスポーツをすることで、障害について理解するとともに、障害のある人は、同年代の健常者と関わることで経験を少しでも広げられることを目的として開催しました。午前中は、体育館にて障害物競争、リレー、ダンスなどをして交流を深めました。午後は、公民館にて昼食を一緒にとりました。昼食後、自己紹介をしていましたが、終始、笑い声が聞こえてきました。

○山地会長

事務局の説明が終わりました。この件に関してご意見、ご質問等ございますでしょうか？

○明石委員

資料1-27のことで、事業に係る課題反省点のところで、高校生に公民館の活動についての意見を聞いたとありますが、参加した高校生からどんな意見がありましたか。

○事務局

市内に通っている高校生が2名いたのですが、それ以外は市外の方だったのですが、午前中は体育館に行ってリレーとか障害物競走とかを一緒にやってもらって、非常に楽しかったと言っていました。高校生はボランティア活動みたいな事はやっているみたいですね。ぜひともまた同じような内容を今度もやりたいと言っていました。皆さん同じ意見でしたね。もう来ないという意見ではなくて、小学生高校生中学生、またぜひやりたいという意見でしたね。参考資料1の13ページにアンケートで高校生の書いてもらったものが掲載されていますので参考にご覧いただければと思います。

○山地会長

これは高校生とかの募集はどういう風にしましたのですか。

○事務局

実際のところは募集かけても来なかったもので、高校生は高校のボランティア関係の部活に来ていただき、中学生などは知り合いの方にお声掛けをして、友達にも声をかけていただいてきてくれたというのがありました。5名来てくれましたね。ふつうはいかないけれども、友達から言われたら一緒に行くというのもありますね。

○山地会長

他に皆さんの方からございますか。では私から、資料1-14、夏休みの学習室開放について、今回学校にチラシを配布したということで、それなりのチラシの効果があったということですかね。人数が増えているというのは。

○事務局

そうですね、チラシにも夏休みの宿題を終わらせてから一緒に遊びましょうというようなフレーズもあって、ゲームとかあって家ではやらないけれども、公民館で宿題やろう、できるよ、という案内をさせていただきました。それでチラシを配らせていただい

て、その効果はあったかなと思います。

○山地会長

小学校と中学校ですか。

○事務局

そうですね。小学校と中学校ですね。一応 20 歳までということで、大学受験する方も含めて 20 歳までということで対象になっています。

○大谷委員

質問よろしいですか。同じところなのですけれども、これはお友達同士誘い合わせてくる子が多いのか、それとも 1 人で来る感じの子が多いのかどちらですか。

○事務局

高校生の方は 1 人で来ているのですけれども、小学生は基本的には 2 人以上とかお友達同士で来ている人が多かったと思いますね。学習室開放は 7 月 21 日からだったのですけれども、夏休みが終わった最終日修業式の日子どもたちがたくさん公民館にきたんですね。学習室の開放は翌日からだったのですが、保育室を開けて、1 日前倒しで開放しました。多分夏休みの宿題を 1 日でも早く終わらせようということなのでしょうね。ロビーも子供たちでゲームをする子どもで埋まってしまっているということもあったので、勉強する子に対しては保育室を開けようかということで開放しました。それでも保育室も十何名入って埋まってしまったのですけれども。一生懸命やっていましたね。やっぱり友達同士が多かったですね。

○山地会長

今諮問テーマでやっている中でこういう場所をたくさん来てもらうっていう、例えば皆さんの意見から出た、何か仕掛けるとか、行ったら勉強を教えてくれるとか、そういうのがあったらもっと集まるかなと思ったのですけれども。

○事務局

実際に鶴嶺公民館ではまなびの広場ということで、小学生に対して算数を教えている事業をやっていますけれども、先月の 10 月からは鶴が台中学校の生徒さんを対象に、「子ども応援丸」というものをやっております。香川公民館は部屋を貸しているだけなのですけれども、学校教育指導課と NPO 団体が協働事業で中学生の学習支援、塾に行っていない子を対象に勉強を見ようというところで、月に 2 回中学生を受け入れて勉強を見ているというのがあります。これはもともと南湖公民館で西浜中学校の生徒さんを受け入れているということもあったのですが、それと同じ第二弾ということで公民館を使って鶴が台中学校の生徒さんを受け入れるということでやっております。課題としては教える方が不足しがちというのがありますね。なので、今会長さんおっしゃられたこととしてはそこら辺が課題なのかなと思います。

○山地会長

今の時点では自主的な勉強。

○事務局

そうですね、今では自主的な勉強の場を開放しているという事ですね。

○明石委員

南湖と香川でやっている事業は同じ NPO ですか。

○事務局

そうですね。「子ども応援丸」という同じ団体ですね。

○明石委員

香川小の近くでやっているものですか

○奥谷委員

のびしろクラブとは違うものですね

○山地会長

他に皆さん何かございませんか。ではもう1度私の方から。1番最初の資料1－1。下の事業に関わる課題反省点のところ、20分ほどで満席になってしまうのでお断りした方から不満の声もあったと書いてありますが、これはもう少し人数を増やしてくれというようなことでしょうか、ピラティスだともう少し入りそうな感じもするのですが。これは先生からの指定なのですか。

○事務局

そうですね、講義室は確かに広く感じるのですが、寝転がったりするとそれなりに場所をとってしまいますので。また20分というのはかなり早い方だと思いますので、電話が2台しかないのではつながらないというのもあり、不満につながったというのもあると思います。窓口に来られる方もいらっしゃいますので、電話と窓口両方あると20分位で埋まってしまうというのもあります。講義室でもマットを敷いたりすると15名から20名くらいがいいと感じます。

○山地会長

これは三日間同じ人が出るというものですか。

○事務局

そうですね、三日間出れる人という人に限っていますが、欠席してしまう人もいますね。希望者が多かった事業だけでも、結果的に定員割れになるということも発生します。こういう事は勿体無いですね。

○山地会長

次年度など少し募集のやり方などを変えてできるといいですね

○事務局

そうですね。次回はここにも書いてありますように、キャンセル待ちの人をもっと多くとっておくということもあります。

○山地会長

他に何かありますかよろしいでしょうか。それでは次に議題2、諮問について、を議題としたいと思います。事務局の方から参考資料1ということでいろんな事業のアンケートをまとめていただいたものがあります。これまで公民館でやられたもので、とられたアンケート。それから今日配布している、参考資料2ですね、「答申書の構成案」これはA4 1枚でこういう形はどうでしょうかということでもあります。それからですね、今日配布している資料で、自由広場のアンケート、それと私の方でまとめさせて頂きましたけれども、2018年度香川公民館審議会答申のまとめの方向性案というものです。そうしましたら、まずは事務局の方からアンケートの説明を簡単にお願いします。

○事務局

はい。参考資料1のアンケートですが、こちら15ページまであるのですが、基本的には公民館で行っている事業でとったアンケートでございます。対象が小学生であったり、小学生とその保護者であったり、未就学児の親であったりします。「ズンバでダイエット」につきましては完全に保護者の方向けにとったアンケート、「プログラミング」のアンケートにつきましては、小学生とその親と一緒に書いてくれたものが混ざっております。「なわとび教室」や「ボール運動教室」のアンケートは、対象が幼稚園生くらいですので親が書いているというものになります。「スマイリングママサロン」のアンケートについては、0歳から2歳のお子さんがいるお母さんのアンケートです。すべてとったアンケートをそのままお配りしております。特に公民館でどんなイベントや講座があったらいいですかというような項目が含まれておりますので、そこらへんはですね、参考にさせていただいて、子育て世代ですとか子どもですとか、どんなことを公民館に望んでいるのかということが少し把握できるかなと思っております。またご意見やご感想をお書きくださいというような項目もありまして、そちらの方でも参考になるものがいくつか含まれていると思いますので、すべての項目を参考資料として配らせていただいております。1番最後の15ページのものに関しましては、8月の4日にしろやまフェスタで新聞紙の工作をやったのですけれども、そのときに直前で開催した審議会の話を受けて、どんな講座やイベントがあったらいいですか、とか子どもと関わる上でどんな機能があったらいいですかと、というようなものを聞いているものです。こちらも回答数がそこまで多くはないのですけれども、参考になるかと思えます。それから本日お配りした夏休み自由広場のアンケートですが、夏休み期間に公民館で活動しているサークルさんにご協力をいただき、公民館の利用者懇談会の方々と共催としてサークル体験ですね、夏休み自由広場という小学生が公民館で活動しているサークルさんのサークル活動を体験するという事業を実施しておりまして、そこで子どもにとったアンケートでございます。こちらで難しかったことや楽しかったことを聞いておりまして、来年やりたい事を聞いておりますのでそこは参考になるかと思えます。保護者の意見も1番右に書いてあります。ただ、夏休み自由広場、今年は27のサークルが参加してまして、その中から自分が参加したいものを選択する形になっておりますので、来年やりたい事というのも、その27のサークルの中にあるものが多くなっている、という傾向があります。

○山地会長

ありがとうございました。それでですね、諮問については第4回の審議会、3月を予定しておりますけれども、その時には答申として我々の方でまとめて出すというような形になっております。今日大体こんな形でまとめていきたいと思いますという方向を決めてですね、あとは4回目までにもうちょっと具体的に皆さんの意見を入れて答申としていきたいと思えます。参考に私の方でまとめてみました。第1回目と第2回目の審議会の意見を踏まえて、こういう形でまとめていったらどうでしょうかというような案を書いておりますのでこれについて少し説明をしていきたいと思えます。先ほど説明していたアンケートの結果ですとか、そういうものもちりばめております。途中途中で文字が斜めになっているところがあるのですけれども、そこは第2回目の議事録、アンケート結果を踏まえて私の方で書いているというものです。簡単に説明をしていきたいと思

います。まず「はじめに」ということで、これは今回館長から諮問していただいた内容です。そこに書いてるような内容で、地域の教育力を向上する公民館ということで、この3つの内容について答申するというものでございます。そのテーマの選定の背景は諮問書をそのまま記載しております。続いて香川公民館を取り巻く現状と課題ということで、このようなテーマをいただいて、香川公民館の現場というところでどうだろうということで、茅ヶ崎市の教育基本計画に、地域の教育力の向上などということが書かれております。社会教育のところでは、学びあい響きあう社会教育の充実と、いうものがあるので、そういう内容が書かれております。また、平成29年度まちづくり市民満足度調査の結果というものがありまして、それを調べた結果が、次のページの最初に載っております。これはそのままコピーしたんですけども、横軸に満足度、縦軸に重要度ということで、いろんな項目について質問があるのですが、人づくりだとか地域づくりとかいろんな質問があるんですけども、その中で湘北地区ですね、茅ヶ崎市の北部の人たちが関心を持っているもので重要度が高いけれども満足度がそこまで高くないものというものを選んでみようということで、子どもの生きる力を育む学校家庭地域の教育力、多様なニーズに応える保育サービスというのが、グラフ上では四角で囲んでおります。こういうふうなものがこの地域では皆さん関心が高く、重要だけれども満足度がそこまで高くないというふうになっておりまして、こういうものが諮問内容とかなり一致するということで、こういうものを踏まえて答申案を検討していきましょうというふうなことでございます。1-4は答申のスケジュールということで4回ですね、今年度審議会を行っておりますので。1-5は今空白になっておりますけれども、最終的にまとまりましたら、答申の概要という形でまとめていきたいと思っております。以上が「はじめに」ということです。次のところは、公民館と子どもを取り巻く現状と問題点というところで、ここは皆さんで意見を交換したり、アンケート調査の結果を書いてまとめたものです。第2回目の時に表で少し整理しましたけれども、あの内容を大きくまとめたものになります。最初の2-1のところがですね、皆さんの意見から出た内容です。そこででてるのが、学習支援の場の提供、地域文化を多世代が学ぶ、というような内容ですね。それから中高生の発表の場を提供して子どもたちにも指導してもらおう。それから放課後や休日など子どもが集まっている場を居場所としてなにか仕掛ける。もう一つは、中高大学生が公民館と関わる機会をいかにつくるかという意見が書かれた内容ですね。ここは、皆さんが議論していただいた内容をまとめてあります。それから情報発信の方法をどうしたらいいか、それから地域の教育力をサポートする人たちをどう育成するか、順番がこれでいいかどうかわからないんですけどもそういう項目を皆さんから意見をいただいております。それから2-2のところがりよこんだより、これは前回の審議会の際に皆さんにお配りしたのですが、そこで子育て世代シニア世代のつぶやきというコーナーがありまして、そこに書かれていた意見を書いたものになります。ここで大きい項目としては、子育て世代に対する緊急時の子ども預かり、子育てに関する情報発信の基地と、それから次のページ子育て世代に対する周囲近所年配者からの支援をするような場、それから子育て世代に対するフリースペースの提供、そういうのをやったらどうかというようなことが、このりよこんだよりのところを書いてありました。それから後は、これは2-3のところですね、公民館事業のアンケート、これは先ほどご説明いた

できました公民館の事業それから自由広場のアンケートからニーズを把握しましょうということで、ここに書いている公民館の講座とかイベントで今後やって欲しい物等、そういった内容をここで抜き出しています。なわとび教室ではこういうのをやってほしいとか、ボール運動教室ではこういうのをやってほしいとか、そういう形で項目を記載しています。具体的な事業としてこういうものがあるのかなと思います。重複している可能性もありますが、ここでは入れておきました。これらが皆さんの今までのご意見とアンケートの調査結果ということでまとめてあります。そしてこれらの結果を踏まえて、9 ページですね。地域の教育力を向上させるために今後の公民館のあり方ということで「提言」ということが書いてあります。項目的にはですね、館長からの諮問の内容の1 番目の未就学児から小学生の子どもの居場所、2 番目が子ども（未就学児～小学生）と地域の大人との関わり、3 番目が中学生高校生と子どもとの関わり。この大きく3 つですね、先ほど説明した項目を、ここでちりばめてあります。3－1 の項目は、子ども（未就学児から小学生）の居場所ということで、例として学習支援の場を提供する、放課後など子どもが集まっている場を居場所として何か働きかける、子育て世代に対するフリースペースの提供、子育て世代に対する緊急時の子どもの預かり場所、これらが子どもの居場所ということになります。子育てと子どもが居場所ということが少し異なるかもしれませんが、未就学児の方が集まるということでここに入れてみました。3－2 のところが、子ども（未就学児から小学生）と地域の大人との関わりあいということで、これは、地域文化を多世代が共に学ぶ、これは皆さんが茅ヶ崎カルタなどの意見をいただいでですね、そういうふうなものを一緒に学んでいくということで書いております。それから地域の教育力をサポートする人達の育成、これはボランティアですね、子どもたちになにか宿題を教えるとかそういうふうな人たちを育成するというものですね。それから子育て世代に対する周囲・近所・年配者からの支援ということですね、これはちょっとどういうふうなものが具体的にあるのかイメージはそこまで湧いていませんが、離乳食を一緒に作ってみましょうとか、料理教室をやるとか、親子で何かをやるとかそういうふうなところから入っていけばいいのかなというふうに思いました。それから3 のところですね。中学生と高校生、大学生の発表の場を提供してですね、そこに子どもたちも参加して指導してもらうとか。そういうことができればいいのかなというのがあります。曲をやるとかですね、ダンス教室をやるとかですね、音楽をやるとか、そういうのをここで発表してやればいいという意見ですね。次が、中高大学生が公民館と関わる機会。これは、この世代がなかなか公民館等の施設に来ないということで、どういう風に公民館と交わればいいのかという事です。まずはボランティアとかそういうことやるクラブに、先ほど障害児の話がありましたけれども、そういうところから協力をしてもらう機会を作ったらどうかということです。次は諮問の内容とは異なりますけども、公民館情報の伝達方法ということで、公民館の子育てに関する情報の発信の基地になったらどうかというふうな話があります。これは館長からも公民館コンシェルジュを育成しようというような話も議論の中で出ていました。それから後は情報発信の方法ということで、どういう形で子どもたちとかに発信していただくかというようなことです。チラシを学校で配っていただいたというのがありましたけれども、幼稚園とか小学校ですね、そういうところの見学を積極的に受け入れるとか、チラシを配るとか、そういうも

のを案としてやっていったらどうかと。こういう形でまとめていったらどうでしょう、ということで書いてあります。最後に、結びに変えてというところでは、答申がまとまった段階で私になにか書ければと思っております。これは皆さんの意見をいただいてから決めようかと思えます。それから資料編というところです。これで答申書ということでまとめて行けたらと思えます。皆さんの方でなにかご意見があればお願いします。3月の第4回のときにはまとまった形で館長に答申として出したいので、もう一度みなさんの意見を2月半ばくらいまでにいただいて、まとめていきたいと思えます。もう一度みなさんにメールかなにかで最終的なものを見ていただける形ができたらいいかんと思っております。臨時の会を開かなくてもいいようにできたらと思っております。

○事務局

ここまできれいにまとめていただいております。1番最初の1ページ目の(1)(2)(3)、3つのあるべき姿を、まずはいろんな意見を項目別に整理していただいたもの、それをさらに割り振り直してもらったという作りで非常に分かりやすいと思えました。あとは皆さんの中で、先ほど会長さんがいわれたような、子育て世代のはなしなど、居場所とは違うかもしれないというような箇所を、もしかしたらCがDにいくかもしれない、これはこっちじゃないのというのがあればそれはまた修正できると思えますので、その辺はまた見ていただければと思えます。

○明石委員

今のところの居場所というところで、これはDのそこなのですけれども、要望があつてというのもあるかと思うんですけども、緊急時の子ども預かりというふうになってしまうと、ここまで公民館がやるべきことなのかなという気もします。地域のお母さんたちが何かあったときにというのはわかるんですが。これはちょっと別の範疇なのではないかなと思えました。

○山地会長

確かに、いつでもオッケーですよ、というふうにはいかないですね。そういったちゃんと見てくれる人がいないと。

○明石委員

児童館的な居場所が欲しい気持ちがある中の緊急時の子ども預かり場所というふうなことなのかもしれませんが。

○山地委員

これはりよこんだよりのところで書かれていた内容ですよ。これはここまでは書かないでもう少し何とかしたほうがいいですかね。

○事務局

預かりあえるような関係性を作るとかですかね。それを支援するなど。

○山地会長

みんなで集まっているところで、誰かが見ているとかですかね。

○明石委員

今子育てサークルの中でも、こちらでサークルのお母さんたちが利用懇の中で世話人として出てくるときに、子どもの預け場所がないから会議に出れないなどという人もいて、それがすごい切実な問題だと思うんですけども、ちょっと前は世話人の人が出る

ときに別の人がお子さんを預かるよというようなこともあって、サークルの中で間に合うような関係もあったんですが、今はそれができなくなってきたというようなこともあ
ると思います。それなので子育てサークルは2人のうちのどちらかが出ればよいという
ふうになったんですが。公民館で出会った人たちの中でどう助け合いができるか、そう
いうグループができるか、何ができるのかなあと、そういう風なつながりの場所がある
のかなと。

○山地会長

互いに助け合うというか、それは公民館でも構わない、場所的には。

○明石委員

誰かが公民館に来て子どもを遊ばせて見てるからその間に会議に出てきてとか、そう
いう関係性ができればいいと思います。施設そのものに子どもをお願いしますというふ
うなことはまたちょっと違うと思います。

○山地会長

互いに支え合うような場を作るとか。

○事務局

下のところの子育てに対する周囲近所の支援というところと一緒にしてしまっても良
いかもしれないですね。

○山地会長

10ページの次のところですかね。そうすると、そういう子育て世代ばかりではなく
て、年配の方とかそういう方とかにもサポートしてもらえる。

○明石委員

知り合いがいてみたいな。

○山地会長

そうすると、DをGの方に持ってくるということで。実際は急病急用に子どもを預け
るとそのまま書いてしまうと完全に公民館の範疇を超えてしまうので、意見としてはあ
ったんだけど、サークル同士の保育など、そういう関係性ができると良いというこ
とで、DはCのほうに一緒にするというのでいきましょう

あとは学習支援の場の提供というのは。先程の話だとボランティアとかそういうこと
をやる人がいないというような話でしたが。

○大谷委員

聞くところによると、鶴が台の推進協でも発表されるんですけども、実際に推進協
の中のメンバーの方が、ここでボランティアをなさっていてやはり教える側の人数が圧
倒的に足りない。募集をかけるのだけれども、なかなか集まらないというところが問
題だそうです。理想としては1人ずつ見てあげたいけれども、それは出来なくてという
状態が続いています。というような報告がありました

○山地会長

そういうボランティアの育成というか。

○大谷委員

広くこういうボランティアをやってますよ、というのをどうやって行っているちょっ
とわからないんですけども、実際にこういうのが始まっていますよというのは会議の場

で聞いたので、どういう風に募集したのかわからないんですけれども。生徒さんにこういうことをやりますよ、という案内は行くと思うのですけれども、その講師をしてくださる方というのはいろいろ当たっていると思うのですけれども、もっと広く呼びかけてもらっしゃるかどうかはちょっとわからないですね。圧倒的に教えてくださる方が足りないというのはおっしゃっていましたね。

○事務局

実際人数も驚いたのですけれども、20名超えているんですよ。

○大谷委員

そうらしいですね。

○事務局

25、6名いらしているらしいですね。結構多いという感じがしました。

○大谷委員

急遽部屋をもう一つ開けたということもあったそうですし、人数がどんどん、一回ごとに増えているような事は聞いております。

○奥谷委員

私も伸びしろクラブさんの方からは、最初の時にお話があって、去年も見に行って、最初は3年生とか3年生くらいの子が多かったらしいのですけれども、少しずつ子どもたちの間でも口コミで広がっていったりして、自治会の回覧板でもまわったりして、徐々に増えて行って今は、高学年で自分の学習があれだからと思う子が増えてきて、来てくれるようになっていくということをおっしゃっていました。去年より人数増えたんですねという話をしていたんですけれども、やはり指導者が足りなくてという事はおっしゃっていました。

○明石委員

昔公民館でもアズマさんという方が教室じゃないけれども、放課後にわかんないこと来ていいよとやってらっしゃいませんでしたっけ。

○事務局

何年ぐらい前ですかね。ロビーでですか。

○明石委員

何年前ですかね、週1回水曜日ですかね、そのときは知り合いの子が1人とかそういう感じだったんですけど。部屋を借りてやっていたと思います。

○山地会長

Fの項目のところに、地域の教育力をサポートする人たちの育成をするというところがあります。こういうところとセットですね。

○事務局

小学生の、私事ですが、小学生の5年の息子がいるのですがたまに算数とかやってもこういう学び方なんだと自分が習ったものと違う方法もあって教えられないなというのもあったりして、教える人も結構知識がいるかも知れませんね。

○東委員

難しいですよ。何回も何回も指導要領変わっていますもんね。だからできないと思ってらっしゃる方も多いかもしれませんね。ちょっと無理といった方も。

○山地会長

今の中学校のレベルは高いというのはFのところに入れてもいいかもしれませんね。

○明石委員

学び直さないと教えられないかもしれない。

○山地会長

そういうのもいいかもしれませんね、そのための養成講座みたいな。

○大谷委員

実際に鶴が台中学校の人たちを教えている先生も昔学校の先生だった人らしいので。

○事務局

鶴嶺公民館で行っているものも昔先生だった方らしいです。

○奥谷委員

いざ教えるとなると、そういうことを経験してない方には、例えば小学生だったら「掛け算がわからない子おいで」、ぐらいだったらいいかもしれないけれども、それはいけそうというのがあるかもしれないけれども、すべての学年でとなると難しいかもしれないですね。

○明石委員

数学になっちゃうと。

○奥谷委員

そうですね。6年生でもXYとかそういうのも入ってきてしまっているの、そういうふうになってきてしまっていると、こんなのやってるのと、いうふうになってしまつてハードルが高いかもかもしれません。もし学習支援となるのだったら、学年を区切ってやるというのもいいかもしれないですね。算数の九九をちょっと遊びながらやろうよとかだったら、支援にもなるし一緒にやる人自身も楽しみながらやれるんじゃないかなと思います。中学の英語とかだと海外に出た方など意外といらっしゃるじゃないですか、出張で行っているとか、昔海外赴任していたとか。そういう方がいらっしゃいますので、そういう方々は教えられると思いますね。全般的にやりましょうとなると、すごく大きい学習支援にしてしまうと難しいかもしれませんが、こういうことをやりたいのだけど、という形で募集かければもしかしたら集まるかもしれないですね。

○山地会長

ある程度テリトリーを決めてこういうことができる人を募集するとか決めて。具体的に。

○明石委員

そうすると教える側もやること見えてくるので。これだったらいけそうとかこれはダメだとかそういうのがわかりますね。

○山地会長

それは提言の中に入れて、ボランティアするときにはテリトリーを明確にした上で募集すると。

○奥谷委員

そうですね、絞った方が人は集まると思います。

○明石委員

ここに通う子どもたちの背景なんですけれども、比較的余裕があって塾に行けるような子たちは塾でもっと専門のことをやっているとどんどん勉強進んでやればいいと思うんですけども、やっぱりきっとそこが難しくって塾にも行かれずに自力でなんとかしなくちゃいけないけれども、自力では限界があってという子もいて、そうすると受験にはものすごく不利になってしまうという子もいると思いますが、そこをなんとかしたいといううなものですよね、この学習支援というのは。

○事務局

こども応援丸というのは、今おっしゃられた背景、そういうお子さんたちを対象としてますね。鶴嶺公民館のほうも小学校で塾に行っていない子だけとしております。

○山地会長

そうすると今おっしゃられたように、レベルが違いますよね、その子によって。例えばこれができないから重点的やるとか、中学校に入ったけれども小学校の勉強がわからないからそこからスタートしたいとか、内容が変わってレベルがいろいろ変わりますからね。提言の内容としてはそういうものを加味してそういう養成講座みたいなをやるとか、人を集めるときにそういうようなある程度テリトリーを明確にして集めるとか。レベルは中学校の宿題ぐらいまでなどといったように明確にしたほうがいいですね。

○明石委員

寺子屋開きたい、ボランティアしたいなど、やりたい人もいっぱいいらっしゃるかなと思います。それを支援する立場を組織する役割もあるといいですね。

○山地会長

サークルみたいな形でできればいいってことですね。あとどうですかね、実際に公民館で実現しようとするのが難しいとか、こういうことに注意しないと難しいんじゃないかとかそういうのがあれば。Bの休日とか放課後に子どもが集まっている場に対してそこに何かあったら働きかけていきたいと思いますというのはありましたけれども、これはできそうですか。

○事務局

働きかけとはちょっと異なるかもしれませんが、小学校の3年生が施設見学に来ています。その時に公民館をぐるっと回って説明をするのですが、みんなも来てもいいよっていうのをお知らせをしています。どっか遊びに行く場所がなかったら図書館や公民館に来てもいいよと。ロビーでおもちゃで遊べるし、本も読めるし、いつでも来てもいいよと、案内しています。後は主催事業があればそれに来てねということができます。あとは働きかけるときにも子どものボランティアをいかにして増やしていくかっていうのが課題になると思いますね、先程の学習支援のように。それと4月と比べてカードゲームをやっている子たちが減ってきた感じがしますね。ブームが過ぎ去ったのかもしれませんが、だんだん減ってきたかなという印象があります。代わりに雑木林に行ったり、オセロや折り紙で遊んでいる子も増えてきた感じがします。だんだんカードゲーム自体がすたれてきたのかどうかわからないのですが、そういうふうに感じました。あとは一時より子どもたちが少なくなっている気もしましたね。

○大谷委員

外遊びしている子が多いなと最近思いますね。鶴が台は公園が多いので、以前より増

えているかなと思います。

○山地会長

最近はそういう傾向があるんですかね。

○奥谷委員

4月にクラス替えがあるじゃないですか、その時はそんなに群れてできないかもしれないのですけれども、ある程度、運動会とか大きな行事を経てみんなと声掛け合って遊べるようになって外で遊ぶという時期かもしれませんね。それが出てきたのかなというのがありますね。

○事務局

公民館としてはさびしいですけどね、特に土日などは少ないですね、子どもたちが行く場所があればそれはそれで構わないのですが。

○山地会長

Cの子育て世代に対するフリースペースの提供とかいうのは、こういうのはどうでしょう。

○事務局

そうですね、ロビーであればいつでも使えます。またかめさんのお家というフリースペースもやっていますので。

○山地会長

後はEの地域文化を多世代で学ぶ。茅ヶ崎カルタとか将棋とか、そういうことですけども、アンケートに出たのも絡めていますけど、こういうのが地域の人たちとできればいいかなと。将棋とかは今もやっていますよね。

○事務局

そうですね、やってますね。

○山地会長

I、子育て世代に対する周囲・近所・年配者からの支援、こういうのは具体的にどういう形でやるのか、先程の子ども預かりみたいなこともあるかもしれませんね。こういうことをボランティアみたいな形でやってもらうというようなことですかね。

○事務局

先日選挙の関係で延期になってしまった事業がありまして、利用者懇談会と共催で元気になる子育て講座というのを企画してまして、ピラティスと保育士のお話を聞くというものなんですけど、選挙で開催できなくなってしまったので、今度2月にあるのですが、そこにはお母さん方だけではなく、高齢者の世代の人も呼んで、昔はこうだったけど今はこうとか、そういう交流も考えて講座を予定しております

○明石委員

ピラティスから一緒にやるのですよね、おじいちゃんおばあちゃん世代も。

○事務局

そうですね。議題1でもあった公民館でやったピラティスも結構60代でやりたい人が多かったですね。ピラティスだけやりたいっていった方が多いかもしれませんね。

○山地会長

次は3のところですね、Hのところですよ。中高生に子どもたちに教えてもらうという

のは。これはなにかチラシとかを入れてクラブ活動のところに、中高生たちにやってもらったような形ですかね。

○事務局

そうですね、結構アンケートを見るとダンスを習いたいなど結構あったと思うのですよね。それで高校生大学生に来てもらって教えてもらおうというのはいいですよね。そうすることで近隣の中学生、今の中学生は小学校の時には公民館に来ていたっていう子も多いと思うので、だんだん歳を重ねることで自分たちの活動が忙しくなって、活動の場が公民館ではなくなっている事がありますので、また呼び戻すというわけではないですけども、先生という立場になってしまいますが、それで公民館また来てもらおうというのも1つかもかもしれませんね。

○山地会長

公民館まつりのときに聞いたときもダンスをやってもらいたいって意見でていましたね。

○事務局

チアリーディングとかになってしまうと公民館ではできなくなってしまうので、そういったものとは違うダンスなのかなと思うのですけども。

○山地会長

クラブ活動の延長ですよね。放課後とかそういう時間帯になるんですかね。

○事務局

そうですね、放課後とか土日とかですよね、できる範囲の中ですよね。あとは31年度の事業の中で、全部できないので、検討します。

○山地会長

そうですね、実現できそうなものは実施して。

○事務局

中学校なり高校なりに、巻き込みたいと思います。例えば奥谷先生、小学校などは高校などとながりはあるのですか。

○奥谷委員

高校はないですね。中学はダンスクラブはこの学区内ではないですね。部活動としては。小学生も香川小学校ではダンスクラブがあるのですけども、その子たちはちょうど土曜参観の日に昼休みにクラブ活動でやっているダンスを発表しています。なかなかクラブという時間が学校の教育課程の中では取りにくくなっているんで、そこまでもっていくのがやっとならですね。10月の最後のほうの公民館まつりにはちょっと難しいですね。それでもしダンスやってみたいというのであれば、3月に子ども祭りありますよね、あそこにタイミングでというのものもあるかもしれないですね。やりたい人いますかという話をもっていか、発表の場としてはそこを使おうという1つ案が出るかもしれないですね。ただなかなか学校の休みのときに連れて行くと、ダンスの担当の先生と一緒に行かなきゃいけないというのもあるんで、そこがすごく難しいですね。高校生くらいであればすごくいいなと思うんですけども、全然教えてくれますし。中学校の部活見学に行く時も、体験みたいな形でちょっとずつ教えてくれたりするのでよね、6年生に。中学生だったら十分に、これ投げるから打ってみて、みたいな体験をさせてくれたりと

か、そういうこともできたりするので、中学は鶴が台中学校では卓球部盛んじゃないですか、卓球はもしかしたら土曜日とか日曜日とか大会がなければ、そういう時に卓球体験の場を設けたいんだけど一緒にやってくれるみたいなのはできるかもしれませんね。

○事務局

鶴が台中の卓球部の子たちは公民館の卓球開放にも時々来てくれますね。

○奥谷委員

だからなんかそういうのでちょっとここで教えてもらえないかな、みたいな場とかそういうのがあれば活躍の場にもなるのではないかなと思います。

○山地会長

中学校のクラブでそういう公民館で発表できそうなところを選んで、そこから具体的に何かするのがいいかもしれないですね。

○奥谷委員

そしたらまたそこからここも広がるかもしれません。

○鈴木委員

あんまりボランティアっていうことに対して、学校側がやってないっていったら失礼ですけども、アメリカとかそういうところだと、ボランティアをやることによって楽しみもあるし、単位も取れるとかそういうようなシステムがあったりするかもしれませんが、あとは罰則として何かいけないことをしてしまったらお掃除をすることとか、そういうのがあると思うんですけども、日本の場合まだボランティアということが根付いていないのかもしれません。そういうところがあるので難しいところではあるのかと思いますが、そういったところで中学校とか高校とか、そういうところに働きかけてもうちょっとボランティア精神というか、どうにかして協力しながら子どもたちにもそういう精神を学んでもらうではいかがですかみたいな感じの、先程の体験会ではないですけども。そういうのをこちらでやってみて子どもたちにも成長の場にもなるよねという話の形でつなげていくというように思います。

○事務局

ボランティアをやることで、例えば中学生が高校に入るときに何か加点されるということはあるのですか。

○奥谷委員

それはないですかね。

○山地会長

面接とかでいう時に何かアドバンテージがあれば。

○奥谷委員

少し書いたり是可以としますけどね。後は職業体験で中学生きますよね。その子たちにここからこの時間で折り紙の先生をやってもらおうとか、何かそのところでこれを教えてあげるからちょっとやってくれるみたいな、そういう体験を職業体験の時に組み込んでしまうとか。あとは子どもたちってそれで公民館に足が向いたりすることもあるかなと思いますので。学校の方にも今回は鶴が台中、北陽中と10人くらい来てくれたのですけれども、学校の先生のいろいろなのがわかって良かったという感じで、またきたいなと言っていたのがあるのですけども、平日で学校がある時間は小学校には来

れないというのがありますので。公民館だったら休みの日とかに足が向くかなというのもあります。あえてそういう中学生に活躍してもらうような時間を作るとかはあるかもしれない。主役は君たちだよみたいな形で。

○山地会長

公民館まつりボランティアで来ていますよね、それを広げるような形で。

○事務局

ボランティアはそうですね、公民館まつりのときは、いわばいわれるがままにお手伝いするという形ですが、今のは自分たちが先生となってやるということですよね、自分たちでこういうことやってみたいと。

○奥谷委員

打ち合わせ会がある程度あると思いますので、その時にやってもらうという。何か考えておいて、とあらかじめ提示しておいて。中学の総合の時間の中で職業体験のところを計画していると思いますので、その中で何があるか考えて相談しておいてもらって、当日自分たちはこれやるという感じでやってくれば、小学生ぐらいだったらこれがいいかなとか自分たちで考えて、つながっていくのかもしれない。

○山地会長

それでは I の所の職業体験のところで一緒にになりますね。それではあとは J・K あたりで何かありますか。子育て世代に対する情報の発信みたいなことは、もう考えていますかコンシェルジュみたいなことは。

○事務局

まだですね、香川駅前に子育て支援センターというのがありますので、そちらに情報集まってると思います。公民館にもそちらのチラシなどを置いてありますので、そういう意味での情報発信はしていますね。それと公民館入ってすぐのところに、プロジェクターで富士見丘幼稚園さんの作品を投影してます。

○鈴木委員

あのデジタル絵本アワードっていうのですが、今幼稚園でプログラミングをやっているんですけども、卒園生が製作したデジタル絵本がありまして、共同で作った作品が 2 作品、個人で作った作品が 1 作品がありまして、それがキッズ賞に入賞しまして、12 月 1 日に東大まで行って授賞式に行っていたんですけども。それを今プロジェクターに映して公民館で展示させていただいております。

○事務局

帰りがけにぜひご覧いただければ。そういった意味では情報発信という意味では少しやれているのかなと思います。これがきっかけでまた来ていただければいいですね。

○山地会長

あとは何かありますか。

○事務局

後は今少しずつですけども、公民館で Facebook などやっております。そこまで多くの方に見てもらっては無いですが。またホームページのほうもやっております。今はウェブで情報得るという人が多いと思います。あとは講座は何で知ったかというのは広報紙が 1 番多いのですね。広報紙の力というのは大きいので、そっちは継続で。ただ

若い方はホームページ等を見る方も大分いると思いますね。

○山地会長

ではそういう方向でまとめをするということでよろしいですかね。あとは今日いただいた皆さんの意見をもう一回ここに反映させてご覧いただいて、最終的にまとめたものをまた見ていただいて。それを1月2月ぐらいに送りします。また皆さんの意見を反映してまとめて、3月の最終の審議会で答申したいと思います。後はまた皆さんの方でここはこうした方がいいんじゃないかということがあれば公民館のほうに、1月中ぐらいにいただければと思います。ではそういう方向で行くということで。次に議題3、第30回香川公民館まつりについて、を議題としたいと思います。先日、公民館まつりに出席皆ささせていただきましたので、何か感想とかこういうふうにやったほうがよかったとかご意見があれば出していただければと思いますけれども。順番にいきましょうか。では鈴木委員からどうぞ。

○鈴木委員

今回初めて参加させていただきまして、すごく盛り上がっていて、すごく地域の方たちも興味を持っているのを実感できました。ただ私も切り絵の本を忘れてしまったところもあって、それはもうちょっとたくさん用意しておけばよかったなと反省です。

○奥谷委員

1日目午前中に参加させてもらいました。ちょうど学童の子たちが来ていたりとか、子どもたちも本当にやってみたいとかいう声がすごい聞かれて。すごくそういうふうな体験をしたい子が多いのだなというのとともに、もうすこしいろいろとできるような感じの準備をもうちょっとしてあげれば、より満足感があるかなと感じました。でもすごく私も一緒にやりながら楽しめました。ありがとうございました。

○東委員

同じく。結構たくさん参加してくれて楽しそうにやっていたのでうれしかったです。見本をもうちょっと調べとけばよかったなというのがありますね。なかなかなくて、切り絵というのはもうちょっと探してみたいなと思いました。

○大谷委員

私は1日目の午後の時間を座ったんですけど。東さんが切り絵の見本を置いてくださったので、子どもがいないときに自分で見て1人で切ってやってたんですけども、そしたら子どもたちがたくさん集まってきて、何やってんの、やっていいの、ということとで好きにやっていました。初めから万華鏡のように切っちゃう子もいたりとかでいろんな子がいて、いろんなメッセージを書き始めた子もいて、貼るスペースがなくなってしまった感じもあったんですけども、好きにやっていいよと見ていました。すごい発想力だなと思ったりあと1回やったらいいまた来て、とかいろんな子がいましたが楽しかったです。

○明石委員

日曜の午前中で、山地さんと鈴木先生と一緒にだったんですが、奥谷先生の時もそうだったと思うんですけども、鈴木先生何してるのと、すごいたくさん幼稚園仲間がきて、すごく安心して一緒にやってやってという感じでお子さんがいらしてました。やっぱり知っている人がいて関わってくれるっていうのはすごく嬉しいことなんだなというのが

とても感じられてよかったです。知り合いの大人がいて、すごく安心できて楽しいんだなという気がして見ていました。

○山地会長

私は1日目の午前中とあと日曜日1日ついたんですけれども、久しぶりに子どもたちと一緒に時間を過ごしたというか、私自身が楽しんでやらせていただきました。子どももやはり、なにかを作ると楽しいんだろうなと、結構自分で作ったやつを貼らないで帰るといふ子もいて、やっぱり自分で作ったものを持って帰りたいんだなとも思いました。日曜日の午後は子どもたちが4人ぐらいずっとやってる子もいました。あれも作るこれも作るというて。見本があるとやりやすいっていうのはありますね。楽しい時間を過ごしました。ありがとうございました。今度そういった時間があったらボランティアをしたいと思います。では公民館まつりでは特に他に何かありますか、では公民館まつりは以上でいいですね。それでは議題の4「その他について」事務局から何かありますか。

○事務局

平成30年度茅ヶ崎市公民館運営審議会委員連絡協議会研修会についてでございます。日時は平成30年12月21日（金）9:00～16:30。午前の部は、9時～12時鶴嶺公民館、南湖公民館の取組の説明と見学をします。また午後の部13時30分～16時30分は、香川公民館、松林公民館の取組の説明と見学を行います。当初ではコミセンも見学という話だったんですけれども、コミセンは今回なしということで申し訳ないんですが、今回は公民館のみの見学と取組紹介ということにさせていただきます。2点目が県の公民館大会ですね、1月18日（金）13時～17時、テーマは、「公民館構想から70年を経た今、次の時代に求めていく公民館像とは」～わたしの「できる」が、あなたの「できる」に。共に進もう、世代を超えて～会場は平塚市中央公民館 大ホールです。こちらの出席は、明石委員、山地会長、東委員、鈴木委員で大丈夫ですか。

（出席者の調整）

つづきまして、報告についてです。11月9日（金）に平成30年度公民館長・公民館運営審議会委員等研修会が、山北町生涯学習センターにて開催されました、当日は、山地会長、東さん、関が出席しました。東さんから報告をお願いいたします。

○東委員

推進協でも話したんですが、講演会を、結構よくメディアのほうに出てらっしゃる方2名の方で、水に関するお話だったのですが。中央大の先生と、日本のトイレを作った先生、11月10日でしたかね、本を出された先生の話聞いてきました。水害がすごくここ近年多くて、防災に関する調査とかの話をされて印象に残ったのが、水ですかね、再生した水を利用して都庁の前で水撒きをした、去年の夏に小池都知事とりゅうちえるさんと水撒きをしたという記事が印象に残っております。あとうちに関するトイレのいろんな研究をされている方の話は、漠然と災害時の時はトイレに関することが大変だという話は聞いていたんですけれども、現実になったらどうしたらいいかわからないのでこうしてこうしてという、公民館も行動おこしなさいよ、みたいなことを非常に力強

くいわれていました。水洗であっても、誰かが始末しなきゃいけないので、自分のことは自分でみたいな、それがすごく印象に残って、なんとかしなきゃなとすごくためになりました。

○事務局

被災地の場所のトイレ、ほんとにもうんちまみれなんですよ、その写真があったんですけど、こういった現場があるということを知ってもらいたいということで。何でもかんでもしてしまうとそれってどうなのという感じで。私たちもそういった事態になる可能性もあるわけだし、そういった時に公民館としてどのように対応するかというのは考えさせられましたよね。

○東委員

あと、結局避難した体育館とかのトイレがそんな状態になったら使えないからといって、裏山みたいないところでみんなそこにそっといってやる。1人ではなく、他の大勢の人がみんな行くと、それがまた雪解け水や雨でドドドドドと流れてきて大変だったみたいなの話もすごい印象的でした。

○山地会長

簡易トイレでも皆さん各自で準備していただいて、たぶん公民館とか小学校とかそういうところは使えないこともあるから、とかそういうことを想定してやっておいってくださいってことですかね。

○事務局

ありがとうございました。また12月7日に社会教育課の社会教育委員公民館運営審議会委員等研修が開催されて、こちらは山地さんお願いします。

○山地会長

先生がですね、文教大学の人間科学部の青山鉄平先生という方で若い先生でした。いろいろ公民館とか、東大の教育学部出身で、テーマは社会教育の基礎についてということで、社会教育とはなんぞやというようなところから入ってですね、その時に話があったのが、教育という観点からいくと、家庭教育と学校教育と社会教育とがあると。それで家庭教育と学校教育を除いたもの全て、社会教育だとそういうふうな話ですね。施設としては公民館ですとか図書館ですか青少年会館ですとか、いろんなものがあるんですけども、施設としては。学校教育とかそういうものとは違うのは、自発的に受けるというか、相互にコミュニケーションをとりながらやるとかですね。いろんな団体とも連携してやっているケースがあるということでした。その地域に住む上で必要なものがあるればそういうものはどんどん取り込んでいくのが社会教育というものでした。わかりやすい説明で自分としては勉強になったかなと思いました。

○事務局

ありがとうございました第4回の定例会は3月の中旬ぐらいに行う予定です。また日程を調整させていただきます。事務局からは以上でございます。

○山地会長

ありがとうございました。ほかに何かありますか、よろしいでしょうか。ないようでしたら以上をもちまして本日の会議を終わります。ありがとうございました。

会長署名

山地 廣

委員署名

大谷 紀子